

越前市で捕獲されたアブラボテについて

保科 英人*

New Record of *Tanakia limbata* (Temminck et Schlegel, 1846) (Cyprinidae: Acheilognathinae) from Echizen City,
Fukui Pref., Honshu, Japan

Hideto HOSHINA*

(要旨) 淡水魚の一種アブラボテが越前市より捕獲された。同市からは初記録となる。

キーワード：アブラボテ，コイ科，新記録，越前市，日本

アブラボテはコイ科タナゴ亜科に属する淡水魚である。日本における分布の南限は鹿児島県北薩地方であり(稲留・山本, 2012), 一方日本海側の北限および東限は, 従来福井県敦賀市の筥の川水系とされていた(加藤, 1998; 福井県, 2002)。筥の川水系の東側にあたる木の芽川流域にある中池見湿地で本種が確認されていることから(鹿野, 2003), 厳密には現時点におけるアブラボテの分布の日本海側の東限は同湿地付近ということになる。

現在アブラボテは環境省が指定する準絶滅危惧種で, 福井県版レッドデータブックでも県域絶滅危惧 II 類に分類される希少種である。もっとも, 日本に生息するタナゴ亜科11 種7亜種のうち, カネヒラ以外の種の全てが環境省のレッドリストに含まれており(北村, 2011), アブラボテだけが突出して数を減らしているわけではない。タナゴ類全般の衰退が著しいのは, まずはオオクチバスに代表される外来魚による直接捕食のほか, 産卵に必要な二枚貝の減少や生息地自体の消失などが挙げられる(進東, 2006; 北村, 2011)。

福井県内におけるアブラボテの分布域は, 上述の筥の川水系のほか, かつて若狭町～小浜市を流れる北川水系と美浜町の耳川が知られていたが, 耳川では近年捕獲記録がない(加藤, 1998; 福井市自然史博物館編, 2010)。耳川のアブラボテは地域絶滅した可能性がある。以上をまとめると, 県内におけるアブラボテの分布河川は極めて限られているのが現状である。

2013年10月22日, 筆者はアブラボテ約10頭を越前市余川町で捕獲したので本稿にて記録することとした。

本稿による越前市からの初記録によって, アブラボテの分布の日本海側の北限および東限は, 従来の敦賀市から北方向へ, 直線距離で 30 km 離れた越前市にシフトしたことになる。



写真：アブラボテ (越前市余川町)

問題は, 越前市余川町のアブラボテ個体群が自然分布か否かという点である。加藤(1981)は過去に耳川で捕獲されたアブラボテは移入固体の可能性もあるとして, そもそも本種の自然分布域に福井県が含まれることに当時は疑義を抱いていた。他県の事例でいえば, 愛媛県および静岡県のアブラボテは国内外来魚とされている(三宅・河村, 2013)。福井県内の他のタナゴ類に目を向ければ, 九頭竜水系に定着しているカネヒラやイチモンジタナゴは明らかに移入種である(福井市自然史博物館編, 2010)。都市部郊外でも普通に見られるタイリクバラタナゴが国外外来魚であることはいうまでもない。タナゴ類は雄の婚姻色の鮮やかさや, 体サイズの手ごろさから, ペットとしての需要が高い。故意かアクシデントかは別にして, 野外に放流された個体が外来魚となりやすい傾向がある。

今回, アブラボテが捕獲された場所は, 自然小河川を改修したコンクリート張の用水路であり, 筆者としては越前市余川町の本種の個体群は自然分布であるとの確信は今のところ持っていない。さらに, この問題に対する不透明感を増大させるのがヤリタナゴとの関係である。アブラボテとヤリタナゴは体高や雄の婚姻色から外見による区別が容易と思われるが, 実は分類学的にはかなり近縁で, 両者は妊性のある雑種個体を形成できる(Kawamura & Hosoya, 2000)。事実,

*〒910-8507 福井県福井市文京3-9-1 福井大学教育地域科学部

*Faculty of Education & Regional Studies, Fukui University, Fukui, Fukui, 910-8507 Japan

日本国内の野外環境で両者の雑種個体と思われる個体が採集されている (Hashiguchi et al., 2006). 今回、アブラボテと同時にヤリタナゴも多数捕獲されているので、雑種個体の可能性は調査の際、常に念頭に置いておくべきだろう。

アブラボテは国レベル、県レベルとともに希少種扱いを受けているが、逆に本種が国内外来魚となったとき、他のタナゴ類にいかなる影響を及ぼすかはほとんど研究されていないようである。インターネット上に流れるアブラボテの飼育テクニックでは、本種は攻撃的で他のタナゴ類との同時飼育は避けるべきだとの記述をよく目にする。実際、本種の飼育経験がある筆者も同様の見解を持っている。越前市余川町のアブラボテが自然分布であるか否かを判断するためには、周辺地域における調査の積み重ねなければならない。仮に移入固体であるとすれば、他の淡水魚、とくにタナゴ類に与える影響も調べる必要があるだろう。

末筆ながら、本稿を執筆するにあたり、貴重な助言をくださった長谷川巖と松田隆喜の両氏に厚く御礼申し上げます。

引用文献

- 福井市自然史博物館編, 2010, 特別展解説書 福井の淡水魚図鑑. 福井市自然史博物館, p96.
- 福井県福祉環境部自然保護課編, 2002, 福井県の絶滅のおそれのある野生動物. 福井県レッドデータブック (動物編). 福井県, p243.
- Hashiguchi, Y., T. Kado, S. Kimura, & H. Tachida, 2006. Comparative phylogeography of two bitterlings, *Tanakia lanceolata* and *T. limbata* (Teleostei, Cyprinidae), in Kyushu and adjacent districts of western Japan, based on mitochondrial DNA analysis. *Zoological Science*, 23, 309-322.
- 稲留陽尉・山本智子, 2012, 北薩地域におけるタナゴ類とイシガイ類の分布と産卵床としての利用. 保全生態学研究, 17, 63-71.
- 鹿野雄一, 2003, 中池見湿地の魚類相. 野原精一・河野昭一編, 福井県敦賀市中池見湿地総合学術調査報告. 独立行政法人国立環境研究所, 126-128.
- 加藤文男, 1981, 福井県の淡水魚. 2. タナゴ亜科魚類. 武高評論, (12), 21-27.
- 加藤文男, 1998, 福井県の淡水魚類. 福井県自然環境保全調査研究会陸水生物部会編, 福井県の陸水生物. 福井県, 125-203.
- Kawamura, K. & K. Hosoya, 2000. Masculinization mechanism of hybrids in bitterlings (Teleostei: Cyprinidae). *The Journal of Heredity*, 91, 464-473.
- 北村淳一, 2011, タナゴ亜科魚類の現状と保全. 日本魚類学会自然保護委員会編, 絶体絶命の淡水魚イタセンパラ. 希少種と川の再生に向けて. 東海大学出版会, 194-198.
- 三宅琢也. 河村功一, 2013, タナゴ類における遺伝子浸透 - 見えない外来種 -. 日本魚類学会自然保護委員会編, 見えない脅威“国内外来魚”. どう守る地域の生物多様性.

東海大学出版会, 67-84.

進東健太郎, 2006, 伊豆沼・内沼におけるゼニタナゴと二枚貝の生息状況. 細谷和海・高橋清孝編, ブラックバスを退治する. -シナイモツゴ郷の会からのメッセージ-. 恒星社厚生閣, 東京, 43-47.

Abstract

A fresh water fish, *Tanakia limbata* (Temminck et Schlegel, 1846) is recorded for the first time from Echizen City, Honshu, Japan

Key words : *Tanakia limbata*, Cyprinidae, new record, Echizen City, Japan